神奈川畜産情報

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」〔http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm〕

隔月（１日）発行
〔神奈川畜産情報（平成18年１月号以降）はホームページでもご覧になれます〕

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045（761）4191
FAX 045（759）1162
発行人
志村善一

定価１部10円（１年100円）
会員の購読料は会費に含む

平成二十五年度神奈川県畜産環境コンクールが開催されました

●審査結果について

畜産について広く県民の方々から理解・信頼を得ることと、畜産農家への意識啓発を図ることを目的として、今年度から神奈川県畜産環境コンクールを開催することとし、県内百十九戸の畜産農家が参加しました。

今回のコンクールでは乳牛・肉牛・養豚・養鶏の四部門に分かれ、畜舎の周りについてきれいな景観が形成されているか（畜舎周辺の環境美化）、臭気・騒音・家畜の疾病予防等の対策をしているか（畜舎等の衛生対策）、家畜ふん堆肥について農地等に還元されているか（資源循環の実施状況）、地域での社会見学の受入や消費者との交流等特色のある取り組みが行われているか（特色のある取り組み）等の四つの項目について審査を行いました。

審査方法は、まず県内を五つの地域に分け、それぞれの地域ごとに審査を行い（地域審査）、各地域から推薦のあった二十一農場について県審査を行った結果、最優秀賞一農場、優秀賞三農場、特別賞二農場が決定しました。

●表彰式について

平成二十五年十一月二十六日に表彰式が開催され、表彰だけでなく各受賞農家の取り組み事例もスライドで紹介されるなど研修要素も含まれた内容で、盛会のうちに終了しました。

表彰式会場の様子

●最優秀賞（県知事賞）受賞農家に対する記念品（看板）贈呈

最優秀賞を受賞した有限会社石田牧場に対しては、記念品としてその栄誉を称えた看板が贈呈されました。

受賞された石田栄男氏（左）と陽一氏（右）

●受賞農家

・**最優秀賞**
有限会社　石田牧場

・**優秀賞**
石井牧場（肉牛の部）
有限会社　ブライトピック（養豚の部）
大木養鶏場（養鶏の部）

・**特別賞**
株式会社　みやじ豚（養豚の部）
井上養鶏場（養鶏の部）

以上の六農場につきましては、県ホームページ上でも紹介されています。
（http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4109/p729154.html）

●平成二十六年度神奈川県畜産環境コンクールの開催について

平成二十六年度につきましても引き続き当該コンクールを開催する予定です。皆様の積極的なご参加をお願いします。

（県畜産課畜産環境グループ）

肉用牛技術講習会の開催

肉用牛肥育技術向上と経営の安定化を図るため、県畜産課、県畜産技術所、県畜産会、全農神奈川県本部、神奈川県肉用牛協会、県畜産技術協会との共催により、講習会及び肉牛関連事業の説明会を次のとおり開催します。

日時　平成二十六年三月十二日（水）十一時から十五時
場所　伊勢原市農協本所　3階大会議室
内容
【講演会】
「食品製造残渣を飼料原料に利用する際の留意点」
講師　日本大学生物資源科学部　動物資源科学科　丹羽美次教授
【事業等説明会】
「かながわ産牛肉地産地消推進事業について」：県畜産課
（問合せ　経営指導部　倉迫）

肉用子牛生産者補給金制度

平成二十五年度第３四半期（二十五年十～十二月）の指定肉用子牛の品種区分ごとの平均売買価格は次のとおりでした。

黒毛和種　五三八、九〇〇円
交雑種　一四四、九〇〇円
乳用種　三三三、五〇〇円
黒毛和種・交雑種・乳用種は保証基準価格、合理化目標価格を共に上回っているので、生産者補給金の交付はありません。

なお、肉用牛繁殖経営支援事業に関しては、「黒毛和種」について、交付はありません。

（社団法人神奈川県肉用子牛価格安定基金協会）

新マルキン事業

『十一月及び十二月販売牛の補填金単価報告』

◎第２業務対象年間第３四半期
十一月販売牛補填金単価
肉専用種　〇円
交雑種　一四、二〇〇円
乳用種　四一、四〇〇円
★補てん金交付日
平成二十六年一月二十四日

◎第２業務対象年間第３四半期
十二月販売牛補填金単価
肉専用種　〇円
交雑種　六、〇〇〇円
乳用種　四五、三〇〇円
★補てん金交付日
平成二十六年二月二十四日

販売報告書は、販売月の翌月末までに提出し、同時にトレサの転出を完了して下さい。トレサ転出が確認できない場合には販売報告書が提出されていても補填金交付対象から除外されます。

（経営指導部　倉迫）

かながわの畜産に携わる女性ネットワーク会員募集

平成十八年十一月十九日に設立された女性ネットワークでは、広く県内の畜産に携わる女性の会員を募集しています。

会では、①情報交換・情報の提供、②技術・経営研修会、③優良事例・関係機関等の視察、④行政・関係団体等との意見交換会等を年間の行事として実施しております。

これらの活動を通して個々の資質の向上を図り、経営の安定化に繋げ、神奈川の畜産をもり立てていくこととしています。

会費は、年間五千円とし、家族で加入された場合でも一家族五千円としています。

都市畜産の安定経営の維持・振興には、女性のきめ細かい視点での経営が今まで以上に重要になってきています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

（総務部）

平成二十六年度死亡牛の届出受付、受入日程について

平成二十六年度の家畜保健衛生所における死亡牛（二十四ヶ月齢以上）の届出受付、受入日程を次のとおり（別表：死亡牛届出受付、受入日程）としましたのでお知らせします。

引き続き、死亡牛ＢＳＥ検査の円滑な実施へのご協力をお願いします。

（県畜産課安全管理グループ）

死亡牛届出連絡先

連絡先（電話番号、FAX）	所管区域
県央家畜保健衛生所 電話　046-238-9111（代表） 携帯　080-3403-0157　※ FAX　046-238-9124	横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、相模原市、三浦市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、三浦郡、愛甲郡
湘南家畜保健衛生所 電話　0463-58-0152（代表） 携帯　080-3403-0156　※ FAX　0463-58-5679	平塚市、小田原市、秦野市、伊勢原市、南足柄市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、※藤沢市、茅ヶ崎市、高座郡は県央家保死亡牛保管施設へ搬入

※休日開庁日のみ、死亡牛の届出は携帯電話にお願いします。
休日閉庁日の死亡牛の届出は、FAXでお願いします。

平成26年度　死亡牛の届出受付、受入日程

	月	火	水	木	金	土	日
4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
5月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
6月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
7月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
8月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

	月	火	水	木	金	土	日
10月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
11月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
1月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	
3月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

□受入日　■閉庁日

桃の節句で少子化対応策
濁酒（どぶろく）特期と牛乳消費拡大

二月には四〇年振りの大雪が二回も降り、各種の交通網が寸断される等、農畜産関係も大打撃を受けました。取り分け、その日のうちに処理しなければならない牛乳運搬作業の支障には困窮を極めたことでございましょう。深い雪に足を取られた集乳車を待つ酪農家の皆様の心境は如何ばかりだったかとお察し申し上げます。

この雪が解けて春を迎えると、出番を待っていたのがお雛様。梅が咲き、早咲きの桜が綻び、桃の花の出番です。サトウハチロウ作詞の「雛祭りの歌」は

灯（あか）りを点（つ）けましょ雪洞（ぼんぼり）に〉お花を上げましょ桃の花〉五人囃子（ばやし）や笛太鼓〉今日は楽しい雛祭り〉と

あり、桃の花を供えなければお雛祭りらしくないですよね。

桃の花の色は桃色、即ちこれこそがピンクです。近頃は赤と白の中間色＝淡紅色を全てピンクとし、桜色がピンクの代表のようになってしまったようですが、本来は桜色がピンクの代表です。撫子（なでしこ）も英語ではピンクです。桃も撫子も女性の色であり、男女間の情事は桃色遊戯と言います。撫子競技はサッカーでしたよね。雛祭りの歌の二番目の歌い出だしには

お内裏様にお姫様〉とありますが、お内裏様とは天皇皇后をかたどった一対の雛人形のこと。だから、これを正しく歌うには

雄雛様に雌雛様〉と歌うのが本当でしょうか。菱餅を供え、白酒で祝う日本古来のこの祭りは、二月一四日のバレンタインデー、三月一四日のホワイトデーという毛唐（外国人）たちの祭りにお株を奪われてしまいました。愛情チョコ、義理チョコ、友チョコ、それにキャンデーをお返しするよりも、桃の節句には想い慕う男性に白酒を贈り、男からは愛しいお姫様に菱餅を贈るのはどうだろうか。

女性は白酒、雛祭り用の特別免税濁酒（どぶろく）を造る。国は免税の特区ではなく雛祭り特期＝特別免税期間を設ける粋な計らいをする。濁酒造りが出来なかったときには焼酎に牛乳を入れれば立派な白酒さ。

男は菱形の桃色、白色、草色＝情熱と清純と潤いを表す三色で「犇（ひし）と貴女を抱きしめる」菱餅を。粘りの強い力餅（ちからもち）を搗（つ）いて贈ったら毛唐どものキャンデーよりも格段の効果があると思うよ。これこそが少子化対応策だ。

（忠九朗）

新むらすずめ

地方競馬の収益金は畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

26年4月14日(月)～4月18日(金)
5月19日(月)～5月23日(金)
ナイター開催

研究情報

トウモロコシの不耕起栽培

はじめに

不耕起栽培は、もともとはアメリカ中西部のグレートプレーンズ（穀倉地帯）において、過度な耕起が原因で発生した土壌流出から農地を守るために開発された栽培方法ですが、近年は省力的栽培方法として南北アメリカ大陸を中心に普及してきました。

我が国においても、北海道や九州地方でトウモロコシの省力的栽培方法として利用されていますが、機械が大型であるため、本県のような比較的小面積のほ場が点在する条件での利用は難しいものでした。

生研センターとアグリテクノ矢崎が共同開発した、三〇馬力程度の小型トラクタに装着可能なトウモロコシ用不耕起播種機が、昨年販売されました。

最近、本県においてトウモロコシ二期作栽培の取り組みが広がる中、二作目に不耕起栽培を導入することが有効な手段となっており、本県においても不耕起栽培の普及が今後期待されます。

そこで、不耕起栽培の導入の参考として、畜産技術所における不耕起栽培の取り組みをご紹介します。

一．トウモロコシ二期作での利用

本県でのトウモロコシ二期作は、一作目の収穫期が七月下旬となり、二作目の播種の目安が八月七日頃までとなるため、一作目の収穫から二作目の播種までの期間が短くなっています。そこで、この短期間に確実に播種するため、二作目に不耕起栽培を導入することが有効です。

平成二十二年に実施した試験では、一作目を七月二十六日、二十七日に細断型ロールベーラ体系で収穫し、その後ロールベールを運搬した後に二作目を耕起または不耕起栽培しました。この試験の不耕起栽培には、みのる式大豆用不耕起播種機をトウモロコシ用に改良した播種機を使用しました。**（写真１）**

耕起栽培では、堆肥散布、プラウ耕、ロータリ耕、スパイクハローによる整地の後、八月十二日に播種しました。播種直後にK型ローラで鎮圧、除草剤（土壌処理）を散布し、十二月八日に収穫しました。

不耕起栽培では、収穫後そのまま八月三日に播種しました。播種直後に除草剤（非選択性）、二週間後に除草剤（茎葉処理）を散布し、十一月二十四日に収穫しました。この試験には、みのる式大豆用不耕起播種機をトウモロコシ用に改良した播種機を使用しました。**（写真１）**

栽培期間は、耕起栽培の方が五日間長くなりましたが、早く播種することにより栽培期間の有効積算温度（一〇度基準）は、不耕起栽培の方が一三七℃高くなりました。**（図１）**

その結果、トウモロコシの収穫時の生育ステージが耕起栽培では乳熟期から糊熟期であったに対して、不耕起栽培では糊熟期から黄熟期となり、不耕起栽培の方が耕起栽培と比べて、一〇アール当たりの乾物収量は一四三キログラム多く、乾物率は五・七パーセント高くなりました。**（図１）**

不耕起栽培では、播種前の耕起作業を省略することにより耕起栽培より早く播種することで、気温の高い時期に長く栽培期間を確保して有効積算温度が高くなり、その結果収穫時の登熟も進み、乾物収量、乾物率も高くなりました。このことから、トウモロコシ二期作栽培において不耕起栽培が有効な手段であることがわかりました。

二．イタリアンライグラス収穫後での利用

新開発の播種機は、耕起、不耕起の両方のほ場条件に対応した播種機として開発されたことから、本試験では、イタリアンライグラス収穫後、耕起、不耕起の両方の条件で播種機の性能を評価しました。この試験には、生研センターの所有する試作機を使用しました。**（写真２）**

耕起ほ場はイタリアンライグラス収穫後ロータリ耕を二回実施し播種直前にK型ローラで鎮圧した状態で六月十七日に播種し、不耕起ほ場は二番草の草丈が二〇から四〇センチメートル程度になった状態で六月十四日に播種しました。

作業は、秒速一・五メートル（作業能率は一時間に四〇アール程度）および二・〇メートル（作業能率は一時間に六〇アール程度）の二つのスピードで行いました。

播種機の株間および深さの設定は、いずれも一九センチメートルおよび三センチメートルとしましたが、ほ場条件および作業スピードに関わらずほぼ設定通りに播種できました。**（表１）**

耕起、不耕起とほ場条件の違いにより苗立率、乾物収量に差は認められませんでしたが、作業スピードは秒速一・五メートルの方が苗立率が高く、乾物収量も多くなる傾向でした。**（写真３、図２）**

イタリアンライグラスは、強固なルートマットを形成するため、既存の不耕起播種機では、そのまま播種すると播種溝の切削が阻害され、不完全な形状の播種溝から種子が逸出して、トウモロコシの苗立率が低下します。このため、ディスクハローで畑表層の攪乱やイタリアンライグラスの残根の切断を行い、播種床を準備する必要がありました。

しかし、新開発の播種機では、播種前に簡易耕をしない不耕起ほ場での播種で、耕起ほ場と苗立率や乾物収量の差はありませんでした。新開発の播種機は、イタリアンライグラス収穫後のほ場でも、事前に簡易耕をせずに不耕起播種することが可能で、イタリアンライグラスとの二毛作栽培で、より省力的な栽培方法としての利用が見込まれます。

おわりに

トウモロコシの不耕起栽培は、省力的な栽培方法として今後普及することが見込まれます。

しかし、導入にあたっては、堆肥の施用ができない（表面散布は可能ですが、臭気の発生の理由から難しいと思います）などの今後様々な問題が発生することが想像されます。

そこで、今年度から新開発の播種機を用いて、実際に酪農家ほ場で実証試験や栽培事例を収集し、生研センターを中心に他県と共同して機械の改良やマニュアルの作成に取り組んでいます。

今後、不耕起栽培の導入により、自給飼料の増産の取り組みが拡大することを期待しています。

（神奈川県農業技術センター
畜産技術所　企画研究課
折原健太郎）

写真１

写真２

写真３

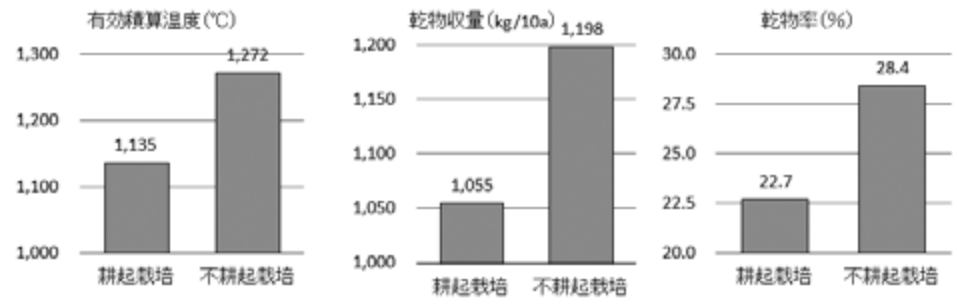

図１　栽培方法の違いが２作目トウモロコシの栽培期間の有効積算温度、乾物収量および乾物率に与える影響

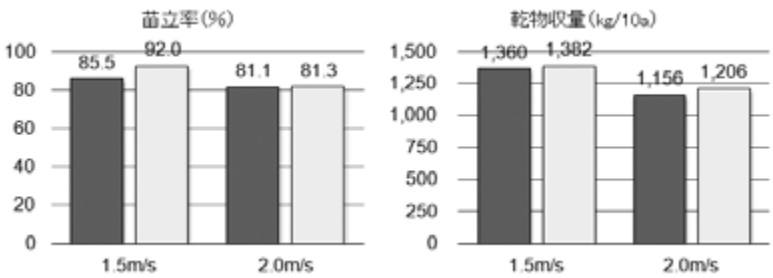

図２　イタリアンライグラス収穫後ほ場におけるほ場条件および作業スピードの違いが苗立率および乾物収量に与える影響

表１　ほ場条件および作業スピードの違いが播種精度に与える影響

ほ場条件	土壌含水率（%）	作業速度（m/s）	株間（cm）	深さ（cm）
耕　起	51.5	1.5	18.1±3.04	3.3±0.65
		2.0	17.2±4.63	3.0±1.01
不耕起	73.8	1.5	17.9±3.63	2.9±0.65
		2.0	18.8±2.72	3.1±0.64

播種機の設定は、株間 19cm、深さ 3cm

家保だより

自己チェックのススメ

平成二十五年十月に我が国では七年ぶりに豚流行性下痢の発生が確認されました。二月二十四日現在、七県百六十七農場において発生が確認されております。豚流行性下痢は、ウイルスによる豚の届出伝染病で、糞便を介して経口感染します。

今般、発生が確認された事例について、疫学調査を実施中ですが、病原体の農場への侵入は、感染豚の導入及び感染豚の糞便に汚染された車両や物品の持ち込み等によって起こると考えられています。

農場における家畜や人の流れを考えたとき、家畜の導入や農場への人の立入、飼料の搬入がまず頭に浮かびます。これらを「入口」に例えるなら、家畜や畜産物の出荷、糞尿や堆肥の搬出等は「出口」に例えられます。これらは家畜や畜産物の出口ではありますが、病原体にとっては、農場への侵入口となっています。

入口対策としては、家畜導入時の隔離および健康観察。農場入口での車両消毒、訪問者の履物と衣類の交換、野生動物の侵入防止などがあげられます。一方、出口対策としては、次のようなものがあげられます。

家畜市場、と畜場等の畜産関係施設に入退場の際には、手指・足元および車両の洗浄・消毒を徹底してください。特に、と畜場出荷後の家畜運搬車は、荷台も含め確実に洗浄・消毒を実施した上で退場するようにお願いします。

また、共同堆肥舎等を利用している場合、発酵前の糞便中にはいろいろな病原体が潜んでいる可能性があることを考慮し、同様に手指・足元および運搬車両の洗浄・消毒を実施してください。

病原体は、ウイルスや細菌はもちろん一番サイズの大きな寄生虫卵であっても私達の目には見えません。常にそのことを念頭におきつつ、飼養衛生管理基準の定期的な自己チェックを実施することをお勧めします。

（県央家畜保健衛生所　荒井）

大野山たより

今年も豆まきが終わったと思ったら、もう桜の咲く季節が近づいてきました。元旦に今年の目標を立てた方も多いと思われますが、実行できていますか。私の目標は毎日一度家族を、職員を、牛を褒めることにしていますが、なかなかどうして難しいものです。今年は丙午、過去を振り返るとあまり良いことが起きていないようですが、皆様の熱い思いで神奈川県民に美味しい安全なミルクやお肉を届けましょう。

さて、大野山では十月から翌年の三月までは概ね舎飼となり、採草地で昨年収穫した牧草サイレージとチモシーやアルファルファを混ぜた乾牧草を給与して過ごしています。牛も職員も少し運動不足になっていますが、牛にとってはこの時期いかにストレスを軽減し発育させるかが、今後の成績向上にとって大きな鍵となっております。昨年の四月に入牧したチビ牛さん達はこの時期に前年度牛に負けないくらいの大きさに育ち、そして月齢もお年頃になり人工授精を実施します。職員も落ち着いて繁殖に向き合うことが出来る時期でもあり寒いですが毎日楽しく仕事に精をだしています。このまま推移すれば順調に新年度を迎えることが出来そうです。

この一年を振り返ってみますと最大の苦難は、昨年の夏の天候の影響かどうかは不明ですが、近年沈静化していましたダニによるピロプラズマ病が、久しぶりに秋に認められた事でした。一時、牛に検査や治療とストレスがかかった事、又暑熱により牧草が伸びない事と重なり、秋に体重が伸び悩んだ事でした。職員の努力の甲斐があり今は回復し元気に育っていますので安心してください。平成二十五年度の目標としてきた一日増体重六八〇グラムを二月まではなんとかクリアしてきました。あともう少し、がんばって目標を達成したいと思います。

さて、この大野山牧場機能の廃止について平成二十八年三月をタイムリミットとすることで具体的に検討が進んでいます。時期がはっきりしたことでもう一回、来月四月に預託牛をお預かりすることになりました。最後まで精一杯職員一同がんばりますので、御助言・御協力の程心からお願い申し上げます。

（大野山乳牛育成牧場長　原田）